

## しんろ

「ふくしまの魅力」を  
発信しましょう！

## 宮木 偉喜 (みやき ひでき)

東北財務局 福島財務事務所 所長  
福島市



個人的に福島県には20数年前、職場の旅行で鶴ヶ城、飯盛山、あぶくま洞などに、また10年前、子供の夏休みの課題で野口英世記念館に訪れたことがあるだけで、当時それらが県内の何処に位置しているかまでは分かっていませんでした。

しかし仕事では、5年前の東日本大震災当時、財務省主計局で「集中復興期間」における復旧・復興事業規模予算の試算など、翌年は農林水産省

担当として、被災地の復旧・復興事業、特に「米の全量・全袋検査」や「食品の放射線量測定検査」のための検査機器導入などの予算に携わった関係で、福島県への思い入れがあります。

このような縁？もあってかどうかわかりませんが、一昨年7月、長崎県壱岐市\*出身の私が、初めての地方勤務に単身赴任という不安だらけの中で、福島財務事務所に赴任しました。



(壱岐市観光連盟 HP より)

※九州と朝鮮半島の間、玄界灘に浮かぶ離島。平成の大合併で4町が合併し市へ。面積は、猪苗代湖より少し大きい程度。人口約28千人（ピーク時、昭和30年約52千人）、高齢化率約35%。

### 福島県人の気質

あれから1年半、福島県内の市町村を訪問し、首長、商工団体、金融機関や企業の方々などから地域経済の現状や地方創生などについてお伺いするとともに、県内各地で社会保障と税の一体改革、日本の財政などをお話させていただき機会をいただき、県内くまなく廻らせていただきました。

福島県に来て感じたことは、四季折々の自然の美しさがあり、首都圏からも近く、大変良い所だということです。特に、東京にいる時には感じたことがなかったのですが、福島県産の果物や野菜には、本来それらが持つ旨味があって美味しいことに驚きました。

謙遜だとは思いますが、お会いした方々からは「自慢できるものが無くて!」という言葉を目にします。しかし、私から見れば、福島は「良いとこばかり」ではないかと思っています。

福島県について調べてみたところ、「福島県人は口下手で大人しく、真面目だが引っ込み思案で要領はあまり良くなく、『自分が!』と前に行く積極性に欠ける」とあり、お会いした方々などを見ていると、失礼ながら「なるほど、確かに!」と感じる場面もありました。

### 活性化（地方創生）のカギ：よそもの、わかもの、ばかもの

全国の自治体は、今年3月までに地域の人口動向や将来人口推計の分析や中長期の将来展望を提示した「人口ビジョン」と、地域の人口動向や産業実態等を踏まえ、2015～2019年度（5か年）の

政策目標・施策をまとめた「地方版総合戦略」を策定することとなっています。これは、被災地である福島県・市町村も例外ではありません。

行政は目指すべき方向性を指示しますが、地域の活性化を取り戻すためには、行政だけではなく、地域住民自らも主体的に進めなければなりません。そのためには、随分前からある言葉ですが、「よそもの」「わかもの」「ばかもの」（アイディアマン）をどのように活用していくかがカギであり、地域の活性化には、この3つの要素が欠かせないと思います。

### これからの福島へ

私もこの1年半の間、福島県を見てきましたが、しがらみがない「よそもの」としての立場から一言。

福島県は、東京駅から新幹線で1時間半以内のところに新白河駅、郡山駅、福島駅が、また、高速道路も東北道、常磐道、それを繋ぐ磐越道とあり、都心から2、3時間程と大変交通の便が良いところです。

震災から5年を迎え、風評被害など未だ課題はありますが、復旧・復興需要などで上向いている今こそ、日本の人口の約3割が集中する首都圏から近いという好条件をフルに活かし、「待ちの姿勢」ではなく、「攻めの姿勢」で福島県をもっとアピールすべきではないでしょうか。

風評払拭のためにも、まずは「来て、見て、食べてもらう」ことが必要で、来てもらえば必ず「福島県のファン」になっていただけると私は確信しています。

私も微力ながら、果物・地酒・米などの美味しいもの、温泉・観光地などの「ふくしまの魅力」を、福島の応援団としてこれからも首都圏などに発信していきたいと思っています。